

「連」では、NPO体験セミナー（表紙参照）に参加し、この夏、「連」の編集に加わってくださったお二人の大学生に、それぞれの学生生活をもとにした記事を、特集コーナーに投稿していただきました。

特集Ⅰ コロナ禍での学生のアルバイト事情の変化について

迫 慧奈（津田塾大学2年）

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、なかなか思うように活動できない今、コロナ禍での学生の生活事情について調査しました。今回は、主に

1. 緊急事態宣言や営業自粛などによるアルバイトへの影響
2. アルバイト事情の変化による生活への影響



という2点について、13人の学生にインタビューを行いました。早速学生たちの回答を見てみましょう！

1. 緊急事態宣言や営業自粛などによるアルバイトへの影響はありましたか？

あった・・・10人

特になかった・・・3人

「あった」と答えた人の回答

- ◆ シフトが減り収入も減った。
- ◆ コロナウイルスの感染対策のための段取りが増え、仕事の量が増した。
- ◆ 営業時間が短くなり、自分の生活スタイルに合わせて働くことができなくなった。

「特になかった」と答えた人の回答

- ◆ 元々あまりアルバイトに力を入れていなかったため、影響は感じられなかった。
- ◆ 規模が小さく、従業員の数も少ない店のため、シフトにはあまり影響がなかった。

2. アルバイト事情の変化による生活への影響はありましたか？

あった・・・9人

特になかった・・・4人

「あった」と答えた人の回答

- ◆ 収入が減ったため、アルバイトの掛け持ち（ダブルワーク）を始めた。
- ◆ 日中は学業に専念するため、以前は深夜帯にシフトを入れていたが、営業時間短縮の影響で深夜帯のシフトに入れなくなり、アルバイトと学校生活の両立が難しくなった。
- ◆ そもそもアルバイト募集の求人自体が少なくなっていたため、しばらくアルバイトとして働くことができず、生活が困窮した。

まとめ

今回インタビューを行った学生は、主にシフトに関する影響を挙げてくれました。特に一人暮らしをしている学生からは、「アルバイトができず収入が減ると生活が困窮してしまう」という意見が多く挙げられました。一人一人さまざまな事情を抱えて苦しんでいる今だからこそ、他人に寄り添い、広い視野を持って社会と関わっていくことが大切だと感じました。